

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1493800104
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	春風の丘
訪問調査日	平成23年11月30日
評価確定日	平成24年1月23日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について
外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法
[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800104	事業の開始年月日	平成20年2月1日	
		指定年月日	平成20年2月1日	
法人名	社会福祉法人 秀峰会			
事業所名	春風の丘			
所在地	(224-0014) 横浜市都筑区牛久保東3-23-35			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成23年11月30日	評価結果 市町村受理日	平成24年3月5日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>近くには公園があり散歩には車道と分かれた遊歩道もあり安全で緑豊かな環境の中にあります。駅まで15分程度で大型ショッピングセンターが立ち並び、買い物に行くにも大変便利です。地域の盆踊り・敬老会・秋祭り・消防訓練などに参加しており、地域との交流を活発に行なっております。ホームの庭が広く四季折々の花が咲き天気の良い日には、お茶など外気浴を行なっております。医療については法人内に診療所があるので、緊急時等直ぐに連携がとれる体制が整っております。</p>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成23年11月30日	評価機関 評価決定日	平成24年1月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>①経営母体は名を地域に定着させている秀峰会である。テーマは「天に星、地に花、人に愛」で、理念は「1. 人間が主体である。2. 連帯の輪を無限に広げて行く。3. 日に日に新たな今日を創造していく」であり、日々、理念を元にケアを実践すると共に、事務所の目立つ所に掲示され、パンフレット・名刺にも記載し、一貫した介護ポリシーで関係事業所全体に展開されている。秀峰会は事業部制を敷き、グループホームを1つの事業部として情報の流れをスムーズにしている。事業部本部を横浜に集結し、横の連携を強化すると共に人材の活用面にも力を入れている法人である。このホームは、横浜市営地下鉄センター北駅から徒歩12-3分の静かな場所にある。ホームの前は、公園があり、近くにお寺もある。ホームは平屋建ての二棟からなり、広い庭を持ち芝生と花壇がきれいに手入れされており、恵まれた環境下にある。法人の理念とは別に、管理者は、職員と共に「介護プラスホスピタリティ」をモットーに「利用者が元気な内は自分自身ができる事を楽しんで頂く」支援に特に配慮している。</p> <p>②地域との関係については、地元町内会に加入しており、敬老会やすぐ近くのなつみかん公園で行われる盆踊りには、利用者が多数参加している。ホーム主催の秋祭りは、町内会よりテント等お借りして、地域の住民もお誘いし、広い庭を利用してバーベキュー大会を行い好評であった。近隣住民に元消防署員が居り、ホームの避難訓練に参加頂き、専門的なアドバイス等を頂き助かっている。毎月一回、ちぎれ絵とぬり絵のボランティアにも来て頂いている。毎年一回の作品展覧会もホーム内で行っており、利用者の励みになっている。小学校の通路にもなる関係上、「こどもの家110番」にもなっている。</p> <p>③ケアについては、「元気なうちに楽しんでいただく」の支援のため、毎月一回は、外出・外食を心がけている。広いリビングを利用して法人内のボランティアバンドのミニコンサートを行ったり、カラオケを楽しんだり、日中は、ほとんどの利用者が、居室にはこもらず、リビングや庭で楽しく過ごされている。ケアの考え方のベースをチームケアに置き、職員のレベルアップを図ると共にベクトル合わせを重点に考え、介護職員の対応に統一を図る様、話し合いを重ね、利用者が混乱することが無い様ベクトルを合わせるべく、常に努力している。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	春風の丘
ユニット名	すみれ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念 1. 人間が主体である 2. 連帯の輪を無限に広げていく 3. 日に日に新たな今日を創造していく。 を日々のケアで実践していく	法人の理念 1. 人間が主体である 2. 連帯の輪を無限に広げていく 3. 日に日に新たな今日を創造していく。 を日々のケアで実践している。法人の理念、マナー等を記載した小冊子「羅針盤」を、職員は絶えず携帯し、このホームの方針の「介護プラスホスピタリティ」を掲げ、利用者が元気なうちに出来ること楽しんでいただく事を職員の共通認識として支援に努めている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の理念を踏まえ、町内会にも加入し、地域住民の方との相互交流を推進している。事業所イベントへの案内や地域の敬老会等にご利用者とともに参加している	法人の理念を踏まえ、牛久保東町内会に加入し、町内会の行事（敬老会・盆踊り等）に参加している。ホーム主催の秋祭りは、ホームの庭でバーベキュー大会を行い、近隣の方々・ご家族も参加頂き盛大に行った。「こどもの家110番」にもなっており、今後地元小学校との交流を今後の課題としている。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や職場体験を通じて認知症の方へのアプローチの仕方を伝えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において話し合われた内容を職員間で共有し、日々のケアに生かせるようにしている	運営推進会議は主に中川地域包括支援センターの職員の方にご参加頂き、年間3～4回の頻度で行っている。会議の中で、ホームの行事の際の協力(テントを借りる)を話し合ったり、ボランティアの紹介をお願いする等、ホームの活動報告以外にも有意義な話し合いが行われている。会議において話し合われた内容は職員間で共有し、日々のケアに生かすよう努めている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中川地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議やホームの行事へ参加していただき現状の報告・それに対する助言を頂いている	地元の中川地域包括支援センターとの連携は、密接で、運営推進会議への参加、ホーム行事等への参加を頂いている。区役所は、地域包括支援センターに任せており、区役所との付き合いは、日常の業務連携、区役所主催の研修への参加などである。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯を除き、基本的には施錠は行なっておりません。会議で身体拘束の定義や事例を話し合い日々の業務に照らし合わせて認識を深めるようにしています。	夜間帯を除き、基本的には施錠は行なっていない。会議で身体拘束の定義や事例を話し合い日々の業務に照らし合わせて認識を深めるようにし、職員一同、身体拘束のないケアを心がけている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義を認識し事例検討することで職員自身のご利用者に足して行なうケアと照らし合わせて認識を深めるようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を対象とした研修に参加して職員への周知を行なっている。成年後見人制度の利用をされている方、これから利用する家族に相談と情報提供を行なっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を希望されての事前説明時や入居契約時に費用や苦情対応、解約に該当する事由等の説明を行なっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での代表者の方の意見や、面会時に意見を伺い反映させている	ご家族の訪問が多く、面会時には、ご家族から職員がご要望・ご意見を伺うようにしている。家族会はないが、秋祭り・クリスマス会には、ご家族を呼び、お一人お一人のご家族と話し合いをするようにしている。運営推進会議ではご家族代表の方の意見なども伺うようにしている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回以上ユニット毎に会議を行い意見や提案を聞く機会を設けており、職員の意見をホームの運営に反映させている	管理者は、日々職員が話しやすい雰囲気を作るよう努めており、気がついた段階で意見を述べやすいようにしている。毎月のカンファレンスでは、業務上の話とケア会議を分けて話し合うようにしている。6月と11月には面接を行い、職員の個人的な要望を表現できる機会を設けている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の全職員の「現状と未来」正職員対象にした「人事考課」提出にて個別に現状や将来への計画等を直接面談にて聞き取り、昇給・昇格へ反映できるように努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルにあったケアができているか把握した上で必要な研修の案内を行い参加できるように勤務調整を行なっている。また月1回ある事業部内研修への参加は必ず行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の職員との交流を持つ機会は多々ある。また、外部への研修参加や地域の連絡会、定期的な他事業所の訪問を行い関係作り行なっている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の施設見学時から要望等を伺い、これまでの生活暦を含めて情報収集をして、最初の関係作りに生かしています。また、入居当初は密な関わりを持ち、ホームでの生活の様子の情報収集をして次に反映させるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約の折に状況を聞く機会を設け、ご家族の不安が最小限になるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態は一定ではない事を踏まえ、将来の変化を予測する事も必要だが、現段階で何が必要で何ができるかを考慮した支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の意思を確認した上で日常生活の中での家事的な場面に参加し職員と共に活動して頂くようにしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と職員の双方が協力し合う事で御本人が安心した生活が送れることを説明し、様々な事でご協力をいただいている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人、近隣の方との交流が継続していくように場所の提供を含めて支援しています	利用者の昔のご近所の人・友達等の来所を歓迎している。時間制限は設けず原則いつでも受け入れるようにしている。来客の際には、場所の提供を含めて支援している。電話や手紙の支援も行っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにおいて職員が関わる事でコミュニケーションがスムーズに図れるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入所先への訪問や施設宛に届いた郵便物の転送等の手配を行い、必要に応じて電話連絡も行なっている		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の方との会話を通じて御本人の意思を把握し状況確認を行いご本人にとっての最善策を検討している	会話を通して、意思疎通ができる方は、30-40パーセントで、残りの方々は、普段の様子や訴えを観察しながら、意向の把握に努め出来るだけ対応している。日頃の何げない言葉も日誌に記録しておき、参考にしている。常に本人の意思の把握に努め、状況確認を行い本人にとっての最善策を検討している	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴・サービス利用等の状況を御本人や御家族から情報収集を行なっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の職員同士の申し送りによる情報の共有によって一人ひとりの最新の心身の状態を把握できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な職員カンファレンス等でご利用者個々の情報を交換をする事で最新の現状を把握し、必要に応じてご家族や医療へ相談して介護計画に反映できるように努めている	日誌と日々の会話の中から利用者の様子を把握し職員の意見、ケア会議直前の居室担当のアセスメントを踏まえて最新の現状を分析して、定期的カンファレンスを行い、最新の現状を把握し、必要に応じてご家族や医療へ相談して介護計画の作成や見直しを実施している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録への記載事項を共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人やご家族を取り巻く環境の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介を行なっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に依頼する事でホームにて多彩な活動（ちぎり絵・カラーバード）を行いご利用者の生活が豊かになるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関による訪問診療を利用していただきながら、必要時には専門の医療を受けられるように支援しています	同じ法人の訪問診療機関「みずほクリニック」の月2回の訪問診療を受けている。必要時には、最寄駅近くにある開業医（皮膚科・整形外科等）や専門の医療機関の受診を支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関より週に1回看護師が訪問しご利用者の状況を把握し、必要時には主治医に指示を仰ぎ早期の支援が受けられます		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を関係医療機関に対して速やかに伝えるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回契約時に重度化や終末期に関わる指針を提示して、説明し事業所が対応可能な範囲を確認して同意書を交わしています。関係医療機関とも連携をとっている	初回契約時に重度化や終末期に関わる指針を提示して、説明し事業所が対応可能な範囲を確認して同意書を交わしており、関係医療機関とも連携をとっている。終末期寸前にはご家族、医師それにホームの三者で話し合い方向性を決めるようにしている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し全職員に配布し研修等にて情報を共有している。また訓練にかんしては今後、救命講習を随時受けていく予定		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的な避難訓練を行なっている。また町内会の防災訓練に参加し情報交換と相互の協力体制を確認している	年2回の避難訓練を行っており、今年は8月にホームだけの訓練を、11月には、地域住民も参加頂き実施した。地域の方で町内会副会長は、元消防員であり専門的なご指導を受けることができ有意義であった。近くの小学校で行われる町内会の防災訓練にも利用者と共に参加している。備蓄品は庭の倉庫に3日分保管している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の場であっても団体行動ではないことを念頭に置き個人を尊重した声かけを行いプライバシーに配慮した支援を行なっている	共同生活の場であっても、団体で考えることは排除し、個人を尊重し、声かけ等を行うよう支援している。プライバシーに配慮した支援を行ない、利用者のプライドには敬意を払っている。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が随時職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員が話を傾聴してご利用者本人が自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体での活動への参加も個人の意思決定を尊重し無理強いすることのないように配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の個性を尊重し、上手く着る物を決められない方へも「その人らしさ」が反映されるように思案している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はもちろんだが、食事中にBGMや座席・職員の座る位置を含めた食事摂取が進むような環境作りをしている。準備や片付けは基本参加してもらっているが、全員に強制はしていない	献立はもちろん、食事中にBGMや座席・職員の座る位置を含めた食事摂取が進むような環境作りをしている。献立と食材は業者を使っているが、毎月一回は、自由食として、外食や出前を入れ変化を付けている。誕生日には、本人の希望の昼食を提供したり、おやつ時間にケーキを出している。食事の準備や片付けにも利用者に参加していただいている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三度の食事・10時・15時・就寝前の水分補給とそれぞれの食事摂取量に応じて間食等で補えるように支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々のレベルにあった口腔ケアの支援を行なっている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声かけ・誘導や一人ひとりの排泄パターンを確認して状況に応じた排泄の支援を行なっている	定期的な声かけ・誘導や一人一人の排泄パターンを確認して状況に応じた排泄の支援を行っている。極力、おむつにならないよう気配の把握と共に排泄パターンを考慮した誘導を実施している。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	知識として便秘を理解し個々の排便のチェック表を活用して改善に取り組んでいる。また、便困が続く場合は往診医より指示を受けた用量にて服薬による改善方法も行なっている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回という制度の回数を下回らないように注意しているが、入浴対象となる方の意思を尊重することと、職員側の都合をご利用者に押し付けられないように配慮している	週に2回という制度の回数を下回らないように注意している。ユニットにより、多少違うが、午前中を中心に入浴を行っている。一日それぞれのユニットで3人の利用者が入浴することを基本として、利用者の意思を尊重し臨機応変に対応している。職員側の都合をご利用者に押し付けられないように配慮している。調査日当日お隣から収穫したてのゆずの差し入れがあり、早速ゆず湯を沸かしていた。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠は勿論の事。昼間の習慣や時々の個々の身体状況に応じて安心して休息できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の薬の情報を職員が共有し理解に努める。また服薬の管理と都度の症状の変化も確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でご利用者が「楽しい」と感じられる事を提供するように心掛けて支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	フロアの安全が確認できた時は外出希望のあるご利用者の要望を受けて散歩や買い物等にお連れしている。特別な場所への対応に関しては御家族の協力を頂いて支援している	フロアの安全が確認できた時で外出希望のある場合、利用者の要望を受けて散歩や買い物等にお連れしている。近くに公園とお寺を控え散歩の環境に恵まれており、天気の良い日は、散歩に出かけている。また広い庭には、手入れの行き届いた花壇があり毎日の水やりは利用者の日課になっている。ドライブも季節に応じて年5-6回行われ、その際には外食を楽しんでいる。特別な場所への対応に関してはご家族の協力を得て支援している。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の認知能力によってホーム預かりや個人の少額の現金所有として支援している。またご利用者より依頼のあった品物への支払いもご家族の了解を得た上で柔軟に対応している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を使用し、ご本人からの申し出や外線電話の取次ぎを行なっている。手紙の作成、投函に関しても支援している	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に集まる方が不安感を持たず、また混乱をすることのないように配慮し、季節を感じられるような飾り付けや、外出等で撮った写真を掲示して楽しんでもらっている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを自由に使えるように工夫をしている	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室内で安心して過ごせるように長年愛用されていた家具や愛着品を配置、使用していただき御本人が居心地良く過ごせるように工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の把握が認識できる方には自立を促し、見守りを行なう。また、動線に工夫をして安全に過ごせるように支援している	/	

事業所名	春風の丘
ユニット名	たんぽぽ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念 1. 人間が主体である 2. 連帯の輪を無限に広げていく 3. 日に日に新たな今日を創造していく。 を日々のケアで実践していく			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の理念を踏まえ、町内会にも加入し、地域住民の方との相互交流を推進している。事業所イベントへの案内や地域の敬老会等にご利用者とともに参加している			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や職場体験を通じて認知症の方へのアプローチの仕方を伝えている			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において話し合われた内容を職員間で共有し、日々のケアに生かせるようにしている			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	中川地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議やホームの行事へ参加していただき現状の報告・それに対する助言を頂いている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯を除き、基本的には施錠は行なっておりません。会議で身体拘束の定義や事例を話し合い日々の業務に照らし合わせて認識を深めるようにしています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義を認識し事例検討することで職員自身のご利用者に足して行なうケアと照らし合わせて認識を深めるようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を対象とした研修に参加して職員への周知を行なっている。成年後見人制度の利用をされている方、これから利用する家族に相談と情報提供を行なっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を希望されての事前説明時や入居契約時に費用や苦情対応、解約に該当する事由等の説明を行なっている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での代表者の方の意見や、面会時に意見を伺い反映させている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回以上ユニット毎に会議を行い意見や提案を聞く機会を設けており、職員の意見をホームの運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の全職員の「現状と未来」正職員対象にした「人事考課」提出にて個別に現状や将来への計画等を直接面談にて聞き取り、昇給・昇格へ反映できるように努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルにあったケアができているか把握した上で必要な研修の案内を行い参加できるように勤務調整を行なっている。また月1回ある事業部内研修への参加は必ず行なっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の職員との交流を持つ機会は多々ある。また、外部への研修参加や地域の連絡会、定期的な他事業所の訪問を行い関係作り行なっている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人の施設見学時から要望等を伺い、これまでの生活歴を含めて情報収集をして、最初の関係作りに生かしています。また、入居当初は密な関わりを持ち、ホームでの生活の様子の情報収集をして次に反映させるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約の折に状況を聞く機会を設け、ご家族の不安が最小限になるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態は一定ではない事を踏まえ、将来の変化を予測する事も必要だが、現段階で何が必要で何ができるかを考慮した支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の意思を確認した上で日常生活の中での家事的な場面に参加し職員と共に活動して頂くようにしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と職員の双方が協力し合う事で御本人が安心した生活が送れることを説明し、様々な事でご協力をいただいている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人、近隣の方との交流が継続していくように場所の提供を含めて支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにおいて職員が関わる事でコミュニケーションがスムーズに図れるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入所先への訪問や施設宛に届いた郵便物の転送等の手配を行い、必要に応じて電話連絡も行なっている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の方との会話を通じて御本人の意思を把握し状況確認を行いご本人にとっての最善策を検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴・サービス利用等の状況を御本人や御家族から情報収集を行なっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の職員同士の申し送りによる情報の共有によって一人ひとりの最新の心身の状態を把握できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な職員カンファレンス等でご利用者個々の情報を交換をする事で最新の現状を把握し、必要に応じてご家族や医療へ相談して介護計画に反映できるように努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録への記載事項を共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人やご家族を取り巻く環境の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介を行なっている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に依頼する事でホームにて多彩な活動（ちぎり絵・カラーバード）を行いご利用者の生活が豊かになるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関による訪問診療を利用していただきながら、必要時には専門の医療を受けられるように支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関より週に1回看護師が訪問しご利用者の状況を把握し、必要時には主治医に指示を仰ぎ早期の支援が受けられます		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を関係医療機関に対して速やかに伝えるようにしています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回契約時に重度化や終末期に関わる指針を提示して、説明し事業所が対応可能な範囲を確認して同意書を交わしています。関係医療機関とも連携をとっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し全職員に配布し研修等にて情報を共有している。また訓練にかんしては今後、救命講習を随時受けていく予定		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回定期的な避難訓練を行なっている。また町内会の防災訓練に参加し情報交換と相互の協力体制を確認している		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の場であっても団体行動ではないことを念頭に置き個人を尊重した声かけを行いプライバシーに配慮した支援を行なっている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が随時職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員が話を傾聴してご利用者本人が自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体での活動への参加も個人の意思決定を尊重し無理強いすることのないように配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の個性を尊重し、上手く着る物を決められない方へも「その人らしさ」が反映されるように思案している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はもちろんだが、食事中にBGMや座席・職員の座る位置を含めた食事摂取が進むような環境作りをしている。準備や片付けは基本参加してもらっているが、全員に強制はしていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三度の食事・10時・15時・就寝前の水分補給とそれぞれの食事摂取量に応じて間食等で補えるように支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々のレベルにあった口腔ケアの支援を行なっている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声かけ・誘導や一人ひとりの排泄パターンを確認して状況に応じた排泄の支援を行なっている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	知識として便秘を理解し個々の排便のチェック表を活用して改善に取り組んでいる。また、便秘が続く場合は往診医より指示を受けた用量にて服薬による改善方法も行なっている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回という制度の回数を下回らないように注意しているが、入浴対象となる方の意思を尊重することと、職員側の都合をご利用者に押し付けられないように配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠は勿論の事。昼間の習慣や時々の個々の身体状況に応じて安心して休息できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の薬の情報を職員が共有し理解に努める。また服薬の管理と都度の症状の変化も確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でご利用者が「楽しい」と感じられる事を提供するように心掛けて支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	フロアの安全が確認できた時は外出希望のあるご利用者の要望を受けて散歩や買い物等にお連れしている。特別な場所への対応に関しては御家族の協力を頂いて支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の認知能力によってホーム預かりや個人の少額の現金所有として支援している。またご利用者より依頼のあった品物への支払いもご家族の了解を得た上で柔軟に対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を使用し、ご本人からの申し出や外線電話の取次ぎを行なっている。手紙の作成、投函に関しても支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に集まる方が不安感を持たず、また混乱をすることのないように配慮し、季節を感じられるような飾り付けや、外出等で撮った写真を掲示して楽しんでいただいている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを自由に使えるように工夫をしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室内で安心して過ごせるように長年愛用されていた家具や愛着品を配置、使用していただき御本人が居心地良く過ごせるように工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の把握が認識できる方には自立を促し、見守りを行なう。また、動線に工夫をして安全に過ごせるように支援している		

目 標 達 成 計 画

事業所

春風の丘

作成日

平成23年10月30日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		人員不足	離職者の軽減	教育マニュアルの整備	1年
2		介護計画の精査	計画作成者のレベルアップ	介護計画に関わる研修	1年
3		室内滞在時間大	外出機会・楽しみ増加	ひと月毎に外出企画を立てる	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。